

日本に西洋の音楽が入ってきた明治時代、文豪たちはクラシック音楽を聴いてどのような感じ、また、クラシック音楽は彼らの創作にどのような影響を与えたのでしょうか。

文豪が実際に聴いたクラシック世界へ、長岡京室内アンサンブルの演奏と『漱石が聴いたベートーヴェン』の著者瀧井敬子のお話でご案内します。

第一回は夏目漱石をとりあげます。漱石はクラシック音楽に大いに好奇心をそそられて、コンサートにしばしばでかけました。指南役は寺田寅彦。『吾輩は猫である』『野分』には、二人の分身がユーモラスに登場します。

Profile

瀧井敬子 TAKI Keiko

東京藝術大学大学院修士課程修了(音楽学)。音楽学では日本近代音楽史とドイツロマン派を専門とする。著書に『漱石が聴いたベートーヴェン』(中公新書)、共著に『オペラ学の地平』(彩流社)、『幸田延の滞欧日記』(藝大出版会 近刊)、校訂編著に『森鷗外訳オペラ『オルフェウス』』『ゼッキンゲンのトランペット吹き』(いずれも紀伊國屋書店)などがある。訳書は『謎のヴァイオリン』(H. ミュラー著 新潮社)、『大作曲家の和声』『大作曲家の対位法』(D. モッテ著 いずれもシンフォニア)ほか8冊以上。論文多数。

自らの音楽学の研究成果を、映像、照明、舞踊などを積極的に取り入れた、一般の方に親しみやすいレクチャー・コンサートの形で発表している。そのユニークな企画は新聞や雑誌でしばしば話題を呼んできた。

音楽プロデューサーとしても活躍、森鷗外訳オペラ『オルフェウス』および坪内逍遙原作の舞台作品『新曲浦島』世界初演(於:東京藝大)、オペラ『ゼッキンゲンのトランペット吹き』の本邦初演(於:山形県長井市民文化会館)を成功させた。森鷗外生誕150年の来年、2011年10月28日、森鷗外訳オペラ『オルフェウス』改訂版初演 - 永青文庫所蔵の鷗外直筆の原稿に基づく - (於:文京シビック大ホール/文京区・文京アカデミー主催/オーケストラ:長岡京室内アンサンブル)が予定されている。

東京藝術大学と(株)三菱地所とが共同主催で、一週間にわたって開催する総合芸術フェスティバル『藝大アーツイン 東京丸の内』の総合プロデューサー。この企画は、産学連携のモデル・プロジェクトとして、今年で5回目を迎える。

現在、東京藝術大学社会連携センター特任教授。くらしき作陽音楽大学特任教授も兼任。

2010年まで、国立西洋美術館客員研究員も兼任。

岡田暁生 OKADA Akeo

1960年、京都市生まれ。

京都市大学人文科学研究所准教授、専門は近代音楽史。

著書『音楽の聴き方』(中公新書 2005年、韓国版 2009年)

『オペラの運命』(中公新書 2011年、サントリー学芸賞受賞)など

森 悠子 MORI Yuko

教育哲学者・森昭の次女として、高槻市に生まれる。

6歳より才能教育でヴァイオリンを始め、吉富周吉、山本剛史、東儀祐二、鷲見三郎、齋藤秀雄の各氏に師事。桐朋学園大学卒業後、齋藤秀雄教授の助手を務めたのち、チェコスロバキア、フランスに留学。マリア・ホロニョヴァ、ミシエル・オークレールの各氏に師事。1972年バイヤール室内管弦楽団入団、ヨーロッパ各地をまわる。同時期、古楽器演奏の黎明期のバリエ、本格的な古楽器の演奏にもかかわる。77~87年フランス国立放送管弦楽団(現・フランス国立放送フィル)に在籍。88~96年リヨン国立高等音楽院助教授。90年京都フランス音楽アカデミーを創立。以来音楽監督を務め、11年に辞職する。

97年、「若い音楽家の育成と実践の場」と「常に世界に発信する演奏団体」を目指し、長岡京室内アンサンブル設立。99~04年ルーズベルト大学シカゴ芸術大学音楽院教授。05年、キャバシティビルディング講習会を開講。以後、定期的に開催。91年フランス政府より芸術文化勲章「シュヴァリエ章」授与。02年「京都府あげほの賞」受賞。03年フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ章」授与。09年より、くらしき作陽大学音楽学部特任教授。

11年10月より、パナソニック芸術教育プロジェクト「ここから村」指導者。

船橋美穂 FUNAHASHI Miho

滋賀県立膳所高等学校卒業。京都市立芸術大学音楽学部ピアノ科卒業。

83年よりアメリカのコネチカット州ニューヘブーンにて、アンサンブルピアニストとして主にエルランド大学大学院音楽科の講師や大学院生のリサイタルやコンクールの伴奏、室内楽等で活躍し、好評を得る。ヴァイオリンでは同大学主任教授シドニー・ハース氏(ヴァイオリン)等のもとで伴奏者として研鑽を積む。ヴァイオリンだけでなく、ヴィオラ、チェロ、オーボエ、フルートなどの楽器との共演において、高い評価を受けた。90年3月、ニューヘブーン

シンフォニーオーケストラの元コンサートマスターである、キャン・ユー氏のリサイタルの共演ピアニストとして新聞評などで好評を得る。90年帰国。ソロ活動だけでなく、2台のピアノによる演奏会の開催、ライブツィヒ弦楽四重奏団、コチアン弦楽四重奏団、NHK交響楽団メンバー、トマシュ・トマシェフスキー氏など国内外の著名な演奏家との度重なる共演をはじめ、声楽、器楽リサイタルの伴奏など多数の演奏会、CD録音に出演し、そのレパートリーは幅広く多彩である。NHK-FM放送にも伴奏者としてたびたび出演する。97年より、このピアノアンサンブルシリーズを主催し『音楽の友』誌上などで高い評価を得ている。現在、アンサンブルピアニストとして国内外の演奏会で活躍中。02年度藤堂音楽奨励賞受賞。積久美子、元演歌子、岩崎淑、平井文二朗、ワード・ダヴィニーの諸氏に師事。リート伴奏では、佐々木成子、ライナー・ホフマンの両氏に師事。

滋賀県立石山高等学校音楽科、京都文教短期大学非常勤講師。

石上真由子 ISHIGAMI Mayuko

1991年生まれ。2000年、ローマ国際音楽祭に招待される(8才)。2004年、京都芸術祭に出演。2005年、第59回全日本学生音楽コンクール中学校の部大阪大会第2位。2008年、第77回日本音楽コンクールにて第2位、併せて岩谷賞(聴衆賞)、E・ナカミチ賞を受賞。第4回京都私学振興会 文化スポーツ活動賞受賞。2011年、ルーマニア国際音楽コンクール弦楽部門第1位及び全部門最優秀賞、コンチェルトデビュー賞受賞。東京交響楽団、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニーほか、多数のオーケストラと共演。2009年、京都府民ホールアルティでデビューリサイタル(17歳)、翌年、大阪のフェニックスホールでリサイタルを行う(18歳)。ソロ活動の他、アルティ合奏団等でアンサンブルでも活躍。肢体障がい児のためのミニコンサートや病院などでのボランティア演奏活動に励む。モットーは「音楽は世界を救う」。

新井寛、田村隆至、四方恭子、ジャンピエール・ヴァレズ、グレブ・ニキティン、森悠子、高木和弘、山本裕樹、ヤンネ館野氏らに師事。現在、京都府立医科大学に在籍。

細川 泉 HOSOKAWA Izumi

京都市立芸術大学卒業。日本演奏家コンクール特別賞受賞。京都フランス音楽アカデミーにて、ジェラルド・ブルー、ジャンピエール・ヴァレズ、森悠子、安紀ソリエールの各氏のマスタークラスを受講。関西日仏学館とシャンゼリゼ管弦楽団の共同奨学金を得て、フランス・サント・古楽フェスティバルに参加。

現在、京都市立芸術大学大学院2年生。くらしき作陽大学で行われている森悠子の「キャバシティ・ビルディング」の講座を受講中。

これまでに、バイオリンを木村和代、戸田弥生、四方恭子、佐藤一紀、森悠子の各氏に、ビオラを平田泰彦、山本由美子の各氏に師事。

野村朋享 NOMURA Tomoyuki

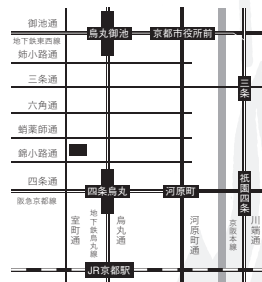
5歳より才能教育研究会でチェロを学び、7歳から15歳までの間、計8回海外派遣演奏団のソリストとして、フィラデルフィアやニューヨークカーネギーホール等各地で演奏する。77年17歳よりフランス国立パリ高等音楽院に留学。アンドレ・ナヴァラの薫陶を受ける。チェロ科、室内学科を共にルミエール・プリを得て81年卒業。在学中ニース夏期国際音楽アカデミー、クラゲンフルト音楽アカデミーで講習を受け、またラジオフランスにて演奏する。卒業後はブルーズ率いるアンサンブル・アンテル・コンタンポランへの参加を強く勧められたが、父の急病で断念し81年帰国。帰国後93年まで才能教育研究会チェロ教室で指導に務める。93年以降、本格的に演奏活動を開始。恩師譲りの優雅で力強く情熱的な演奏には定評があり、これまでにハイドン・ラロ・シューマン・サン＝サーンス・ドヴォルザーク等の協奏曲を演奏の他、国内各地でのリサイタルも数多く、また室内楽でも活躍。最近はオーケストラの首席客演も多数つとめるなど幅広く演奏活動を展開し、各々好評を得ている。チェロをアンドレ・ナヴァラ、フィリップミュラー、マダムニコル・デノー、ルドルフ・マンダルク、佐藤良雄、野村武二の各氏に、室内楽をジャック・パレナン、ジェラルド・ジャリ、イヴォンヌ・ロリオの各氏に、他にウィリアム・ブリムローズ、鈴木鎮一の各氏に演奏法を師事。現在、大阪シンフォニーオーケストラ交響楽団特別首席。



レクチャー・コンサート
明治の文豪と西洋音楽

第1回 夏目漱石と クラシック音楽

KYOTO ART CENTER



JR「京都駅」から地下鉄烏丸線に乗り換え「四条駅」下車、22・24番出口より徒歩5分。
阪急京都線「烏丸駅」22・24番出口より徒歩5分。

京阪本線「三条駅」から地下鉄東西線へ乗り換え、「烏丸御池駅」より徒歩10分。

長岡京室内アンサンブル演奏会 予告

皆様のご支援のおかげで平成24年春 長岡京室内アンサンブルは結成15周年を迎えます。

記念公演にはイタリアとチェコの二人の人気作曲家作品を取り上げました。

今からご予約をして頂き、多くの皆さまにお越し頂きますようご案内申し上げます。

- 日 程 : 平成24年4月1日(日)午後2時開演
- 会 場 : 京都府民ホール「アルティ」
- 演奏曲目 : ポッケリーニ 交響曲 二短調 G506 「悪魔の家」
ポッケリーニ チェロ協奏曲 第2番 イ長調
チェロ独奏 金子 鈴太郎
ドヴォルザーク 弦楽セレナード ホ長調 op.22
- チケット : 一般 4,000円 (全自由席)
学生 3,000円

※CEM賛助会員(2口以上)にご入会頂きますと割引特典が利用できます。詳しくはNPO法人音楽への道CEM(長岡京室内アンサンブル)事務局までお問い合わせください。
☎075-351-5004

※1月10日(月)よりチケット発売予定です。ご予約は早い目にどうぞ。

